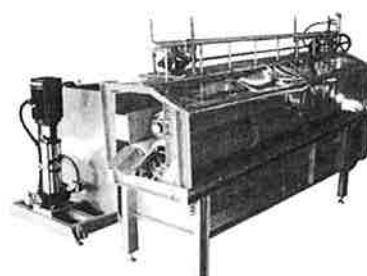


▲現在、掃除の手間を省くよう改良中の「根菜類自動皮剥き装置」。



▲躍進のきっかけとなった「葉付大根洗浄機」。

DATA

- 昭和34年 旭川市3条通20丁目に佐々木鉄工所(代表者 佐々木通氏)を創立。
同年 旭川市3条通18丁目に株甲斐鉄工所(代表者 伊藤学氏)を設立。
平成3年 株佐々木鉄工と株甲斐鉄工が統合し株エフ・イーを設立。
16年 社団法人発明協会より地方発明表彰において「葉付き大根洗浄機の開発」が会長奨励賞を受賞。
21年 経済産業省「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社(キラリと光るモノ作り小規模企業部門)」に選定。
22年 「北海道チャレンジ企業 経営革新部門」に選定。
24年 「根菜類自動皮剥き装置の開発」により経済産業省の第4回ものづくり日本大賞優秀賞受賞。

ホームページ/<http://www.fesystem.co.jp/>

旭川発 未来を担う企業

(株)エフ・イー

旭川市工業団地3条2丁目2-27

☎ 0166-36-4501

大根洗浄機を極め旭川から全国区へ

今年2月、経済産業省などが主催する第4回ものづくり日本大賞で株エフ・イー(佐々木通彦社長)が「根菜類自動皮剥き装置の開発」により優秀賞を受賞した。

同装置は規格外の小さなジャガイモを、付加価値を付けて活用しようという観点から開発。農家の意見を聞き、そのまま加工用に回せるよう手剥き同等にきれいに処理できる機械を目指し、刃を使わずに穴が無数にある回転ドラムの上で根菜を転がす仕組みを考案し、約4年半をかけて開発した。

食品加工会社や障害者授産施設などで使われ、現在使用した意見を汲んで掃除の手間を省くため皮を剥ぐと同時に剥いた皮を排出するよう改良中。これは北海道委託事業の一つ「食関連・知の地域づくり支援事業」として道立総合研究機構が受託し、旭川市工業技術センターや旭川産業創造プラザなどと同社が協力して、同装置の進化を目指している。

現場のニーズを製品に活かし

同社の前身は佐々木社長の父・通氏が興した佐々木鉄工所で、当初はベニヤ合板のホットプレス機などを製造していた。佐々木社長が会社員を辞め、同社に戻ったのは昭和58年で、木材等輸入自由化の波に押され事業が低迷していたころだった。

会社員時代の農業機械設計の経験を活かし、根菜の洗浄・選別機器の開発に乗り出した。北海道だけだと冬場は仕事がなくなるの

で、季節を問わず全国で生産される野菜として大根に着目。大根は傷つくと目持ちしないので輸入ものは無く、加えて健康食ブームから葉付大根が人気となり農家は一本ずつ手洗いする状況だった。

商品価値を高めるため、斜め植毛ブラシの採用により先端に水膜効果をつくり、ブラシが直接接触せず傷つけずに葉付大根を洗える技術を開発。この大根洗浄機は口コミで全国に広まり、各地から引き合いがあつた。

さらに各地の納品先で、「サツマイモやショウガなど北海道には無い野菜の洗浄機を造れないか」との声を聞き、生産者や消費者のニーズに応えることで改良を加えバリエーションを増やしてきた。

佐々木社長は「機械の専門家である私たちでは気づかないことを農家の皆さんに教えてくれる。人との出会い、話すこと、そして感謝の気持ちが大切。お客様はもちろん、業界や仲間、社員など周りの支えのお陰。だからこそ、街づくりに貢献できるよう真剣に努めたい」と話す。



▲佐々木通彦社長

次なる目標に向け

「良いものは場所を問わずボーダレスで売れる」との信念通り、この分野で全国区となつた同社。現在は海を越え、韓国からも引き合いがあり日本の全農に当たる会と取引を進めている。

円高ウォン安の現在ではコストが割高なため、フレームの設計図を提供し韓国側での機械の製造を提案。ただし同社が韓国でも特許を取得しているブラシ部分については使用料をもらい、製品には「エフ・イー」のブランド名を明記してもらうことにしている。

今は円高だが将来は分からぬ。今のうちにエフ・イーブランドを確立しておけば、将来、直接販売するときには大きな力となる。さらに佐々木社長の目はアジアを見つめ、台湾での販路を模索している。

現在、同社が掲げる大きな目標は2つあります。1つは海外展開で、もう1つは食品加工機器分野への進出だ。

セブンイレブンに商品を卸す惣菜製造業大手・ヤマザキ(静岡県)が今年1月旭川に開設する工場で、同社が機械設備に関する工務管理を担当することに。昨年から有能な社員2人をヤマザキ本社に出向させ技術を習得中で、現場経験を積み重ねることで将来のためのノウハウ蓄積を図っている。